# メダカの飼い方，ふやし方

宮城県総合教育センター　理科教育研究グループ

① メダカは水温を 25℃程度にし，照明を１日12 時間点灯させれば数日で産卵しはじめます。
（実験では，4 日目で産卵しました。）

②メダカは産卵の瞬間に受精するので抱卵している段階で既に受精卵です。着床した受精卵をいかに効率良くピックアップし，ふ化用水そうに移すかがふやすポイントです。水草ごと取り出せばほぼ全数を取り出すことが可能で,そのために取り出しやすい水草としてはホテイソウがいいです。水草ごと取り出す方法なら直接受精卵にふれる必要もなく，水カビがでる心配もなく，何より短時間で簡単に誰でも作業ができます。

ふ化用水そうに移したホテイソウ

③メダカのふ化日数は水温によって変わりますが，おおよそ10日から２週間です。したがって２週間ごとに親メダカ水そうとふ化水槽の間を水草のみ交互に移動させるだけでふ化水槽には子メダカだけになります。

④飼育で特に注意するのは２つです。１つめは，メダカは水流によるストレスに非常に弱いので空気ポンプは使わないこと，２つめはまわりで動く物すべてに反応し，ストレスを感じるので水草などでかくれる場所を作ることです。さらに水そうは側面が透明ではないものにするとメダカにとってはよりいい環境になります。（発泡スチロールは保温性にもすぐれています。）

⑤子メダカは成長してメダカの格好になったころから徐々にえさをあたえ始めます。こな状にすりつぶしたえさをほんの少し与えますが，この時期の子メダカはあまりえ餌に近づかず、一日おきぐらいに水をよごさないよう与えます。

⑥よくえさを食べるメダカほど早く成長し，大きさがはっきりしていきます。親メダカの３分の１程度まで成長すれば親との同居も可能なので､良く育ったものから別の水そうに移すようにしましょう。もし移さずに他の子メダカといっしょに飼っていると，小さい子メダカにはえさが行きとどかず，大きさはさらに開いていくことになり，結果として共食いが起こり，親まで育つのはかなり少数になってしまいます。

## この水そうで産卵しました。

温度計（25 度）を確認する。

保温性に優れた発泡スチロールを水そうにしましょう。

赤玉土を入れる（砂利よりも水が汚くならない)。

サーモスタットを 25 度に設定する。

ホテイ草は産卵の管理がしやすく，メダカのかくれ家となる。

水は水道水をカルキ抜きをした後，メダカをいれる。
メダカは水温にも敏感なので，他の水そうから入れる場合は徐々に水温に慣れさせるようにする。

水そうは日光の当たる場所におきましょう。
※温度計やサーモスタットは産卵をさせないときは必要ありません。